

問題

19 世紀後半から第一次世界大戦前の時期のヨーロッパ諸国の議会政治は、各国においてさまざまな様相をみせた。そこには共通点もあれば、相違点もあった。

そのような様相を明らかにするためには、議会政治にかかわるどのような側面に注目するのが有効か、を答えなさい。その際、以下の条件にしたがって解答を作成しなさい。

- ①できるだけ多くの側面を挙げて明示すること。
- ②挙げた側面のそれぞれについて、19 世紀の二大政党制下のイギリス、1880 年代以降の第三共和制下のフランス、帝制ドイツ、自由主義イタリア、復古王政下のスペインを事例として、これらのすべてあるいは複数の国ぐにを対象とした具体的考察を行った文章を書くこと。

(※) 答案の制限字数、提出期間、提出方法、注意事項（「とくに注意すべき点」として指摘した 2 点については、十分に留意すること）などは、「授業案内」のラベルの中の「今後の予定と学期末試験について」という文書の中に記されていますので、それにしてください。

講評

この問題で（というより試験一般で）重要なのは、設問が問うていることを正確に把握し、その問うているものに答えることである。毎回の定期試験でこのことに言及しているのに、問われていることを軽視ないし無視する答案が少なからず提出されるので、今回は、これまで以上にこの点を強調した。問題文の（※）の中で指摘されている二つの「とくに注意すべき点」とは以下のものである。

・①何が問われているのかという設問の内容を十分に理解したうえで解答してください。たとえば、どれほど講義に関連したことを書き連ねた文章でも、どれほど講義資料を正確に要約した文章であっても、問われていることに答えていない答案や、解答の条件を守っていない答案は、低い評価しか得ることができません。

・②他の学生の答案を参照したり、他の学生と相談あるいは協力したりして答案を作成するなどの不正行為は厳に慎んでください。そのような剽窃行為が強く疑われる答案に関しては、極めて低い成績評価を行います。

ここでは①について講評を記しておきたい。なぜなら、いつも以上に注意を喚起しても、設問の軽視や無視がかなりあったからである。

なによりもこの問題がまず問うているのは、19 世紀後半以降のヨーロッパ各国の議会政治の特徴（共通点も相違点もある）を明らかにするために注目すべき「側面」である。だから、まずはそれを挙げて答えないといけない。そして、その挙げた各側面についてヨーロッパ各国を考察することになる。したがって、

- ・「側面」を明示的に挙げていない（まったく設問を無視している）
- ・初めに「側面」をまとめて挙げ（そこまではよい）、その後、各国別（ほぼすべてが講義でとり上げた順序での記述が続く）の記述を、挙げられた「側面」との関係が明らかでないまま（あるいはまったく関係がわからずに）書き連ねる

という答案（少なからずあった）は、この試験の設問の条件を軽視ないし無視している答案とみなさざるをえない。なかでも、結局のところ国別に講義の要約を講義の順に書いているにすぎない答案が目立った。「どれほど講義に関連したことを書き連ねた文章でも、どれほど講義資料を正確に要約した文章であっても、問われていることに答えていない答案や、解答の条件を守っていない答案は、低い評価しか得ることができません」と注意事項に記したとおり、それらの答案には低い評価しか与えていない。

そのうえで、採点に際しては、

- ①挙げられた「側面」が妥当なもの、適切なものであるかどうか
- ②各「側面」についての、5 か国あるいは複数の国についての考察の文章の内容が正確で適切なものかどうか

を基準として評価を行った。

問題を正確に理解し、優れた答案を書いた人も少なくなかった（総じて、問題をきちんと理解してよい答案を書いていた人は多かった）。よい答案は、解答の形式が設問の条件になっている以上、形式的には似てくるのは当然である。具体的には、

- ①「側面」を、番号をつけながら挙げる（その際に、なぜその「側面」が有効なのかの理由までも明確に書いていた人は設問を非常に正確に把握していた人である）
- ②①の側面について、各国の事情を相互に無関係に羅列的に書くのではなく、5 か国あるいは複数国を比較考察した文章を書く
- ③「①→②」を 4～5 つ（「できるだけ多く」）書く

という形式をとっていた。なお、②については、重大な誤りや事実誤認については減点の対象とした。

以上